

国語の玉手箱

四の二と「みんなで新聞を作ろう」

平成二十七年 五月十二日（火）

文責 国語専科 池谷

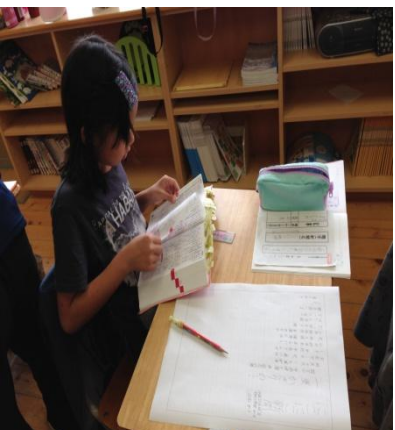
完成まで、もう間近！

新聞づくりの学習に取り組んできて、折り返し地点を過ぎました。学習の中で、分かりやすい記事は、どんな記事なのか考えました。分かりやすい記事にするためには、①「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」といった五つのポイントを落とさず書く、②読み手の興味をひくような見出しをつける、③その時の様子や自分の気持ちを入れる、などのことを知り、新聞の下書きに取り組みました。題字と関連させながら、見出しをつける子どもの姿も見られました。また、記事に合う写真選びも行いました。

新聞づくりをする上で、子どもたちが難しく思ったのが字数の制限です。限られた字数の中で文章を書くには、言葉を選んだり、何を一番伝えたいのか、はっきりさせなければなりません。既習の漢字ももちろん使いながら。授業中、黙々と記事の下書きを書く子ども、国語辞典を活用しながら記事を書く子どもの姿に四の二の新聞づくりに対する気持ちが表れていました。

今、新聞の清書に取り組んでいます。近いうちにご家庭に子どもたちが作った「とっておきの新聞」

が届くと思いますので、どうぞご覧になってください。



国語辞典もすっかり活用しているね。すごい！



自分の記事に合う写真はどれかな。迷うなあ。



下書きを生かして、ていねいに清書するぞ！



【国語日記から】

●○○さん
新聞を作るために、自分が考えていった題字、見出し、分かりやすい記事など、計五時間を思い出して下書きをしました。

●○○君
新聞に自分の気持ちも入れたので、早く家族とか地域の人に読んでもらいたいです。

●○○さん
友だちと読み合って、まちがえているところを○○ちゃんや○○君に見つけてもらい、直せたのでよかったし、うれしかったです。

●○○さん
十周年記念と音読発表会、本の紹介の三つとも、はじめ中・終わりで、だん落をかえて書きました。

●○○君
もうすぐ、この勉強は終わるけど、地域の人やお家の人に分かりやすくするために、絵や見出しに色をつけて分かりやすくしたいです。